

私学助成署名推進ニュース

全国私学助成をすすめる会
(事務局：全国私立学校教職員組合)
No.19 2021年11月11日(木)

愛知：BIGフェスティバル 開催 高校生の「学校生活」「学び」への思いを発信

11月3日、愛知県長久手市のモリコロパークを会場に「BIGフェスティバル」が開催されました。夏の音楽フェスでの問題により県が「フェス」開催に対し非常に厳しい対応を見せていましたが、感染症対策をはじめ高校生、父母、教職員が協力し県に対して粘り強く交渉し開催に漕ぎつけました。当日は晴天の下、700名の高校生群舞をはじめ、3000名の参加者の笑顔が会場を埋めました。

コロナ禍に閉ざされた中での思いを発信

1か月前までは「緊急事態宣言」「まん延防止重点措置」が発令され、学校生活が非日常の状態に置かれていたことを忘れさせるような晴天の解放感の中、モリコロパーク大芝生広場を会場に開催されました。飲食厳禁の制約の中、12:00~午後のみ開催でしたが、メインステージとサブステージを使い、愛知県私学各校の部活動の演技、演奏、各校紹介が行われました。

700名群舞を中心に据えた「希望プロジェクト」では、演奏・発表する部活の代表や25学園の生徒会の代表が、コロナ禍で行事をはじめとしてあるはずだったものを奪われた「学校生活」に対する思いを語りました。



【希望プロジェクト構成詩 生徒会共同アピール 弁論より】

「高校に入学してから、友達が沢山出来ると思ってた。正直、高校生活って、もっと輝いたものだと思ってた。自分は特進コースで、部活に所属できないので、ほかのクラスに、友達ができません。少人数クラスだから、友達の範囲も狭い。入学する前から少しは理解していたことだった。けど、文化祭があったら、他のクラスや、他の学年と仲良くなるきっかけを、手に入れることが出来たと思ってた。なのに… コロナにより、文化祭は2年連続中止、体育祭も2年連続縮小、勉強合宿も2年連続中止。他のクラスに話に行く機会もない。誰かがクラスに話にくるわけでもない。待ってても何も始まらない。でも、自分から動くこともできない。毎日、同じ人と同じことを話して、同じ時間に授業を受けて、帰る毎日。まだ一度も、高校生活を心から楽しいって、思った瞬間がありません。」



だから「できること」にとりくみ、「つながり」をつくり、「発信」したい

【構成詩 部活代表発表 より】

「東海高校吹奏楽部：今日、自分たちの仲間、そして他校の皆さんと一緒に合同でオーケストラの演奏ができる事は、苦しかった日々を一掃できるかのような喜び・嬉しさでいっぱいです。コロナ禍で何のために部活をやるのか、部活を通して何ができるのかを再認識しました」

東海学園高校では、コロナ禍で、何ができるのかを考える中で、経済的理由で修学困難な生徒を支える、「一億円募金」に力を入れようと取り組んでいます。バレーボール部をはじめ、たくさんの人たちに、取り組みが広がっています。

安城学園高校では、コロナ対策を万全にしつつ、学園祭を開催しました。昨年はできなかった企画を復活させることができ、また、原発事故から10年を迎えた福島について、学び、考える企画も、全校で共有することができました。2日間、学校中にみんなの笑顔があふれました。

【構成詩 高校生弁論 より】 「高校生活、3年間、仲間と共に、社会と向き合い、知らない事を学ぶ楽しさを知りました。その中で、何度も、社会の在り方や矛盾に、絶望しました。「もっとこうしたい」という思いがあっても、なかなか変わらないことに、もどかしさを感じました。でも、そんな社会の中でも、私は、私学助成という制度に支えられているから、学校に通うことができている——その事に気がつき、学校に通えること、そんな社会の制度に、とても感謝しました。学ばなければ、絶望することも、感謝をすることもできません。そして、少しずつでも行動し続けることで、人の心は、そして、社会は、変わっていくのだと思えるようになりました。

私学助成への取り組みは、私にとって、真剣に社会と向き合うきっかけになりました。私は将来、そんな社会に恩返しができるよう、未来の子どもたちが社会に感謝できるような、みんなの幸せをつくり出せる大人になりたいと思っています。

私たちが学校に通い、社会と繋がり、学ぶこと。それはこれからの未来をつくっていく力になる。私たちが未来をつくっていく。



今日は、私が待ちに待ったBIGフェスティバルです。コロナ禍で暗い気持ちを抱えた、別々の場所から集まってきた仲間の、笑顔を作り出せたことが、なによりも私の誇りです。このBIGフェスティバルを作り上げるために、共に頑張ってきた仲間、応援してくれた先生や父母のみなさん、ここへ集まってくださったたくさんの人。全ての人に感謝の気持ちを忘れず、これからも100%の未来を担う1人として、多くの人と繋がり、学び、行動し続けます。」

群舞前には広場にサブステージも設定されましたが、子どもの安全を考え2回開催を見送った「幼稚園フェス」への思い、幼稚園助成拡充の願いを幼稚園・こども園教職員組合の先生方が発信しました。

